

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホームふきのとう 第1ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番53号		
自己評価作成日	平成27年12月3日	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0172000184-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者様の意向に出来るだけ沿い、個別の買い物や外出を行ったり、ご本人の希望される嗜好品等を購入する等、その人らしい生活を送って頂ける様、支援をさせて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

見晴らしの良い高台の住宅地にある3階建て3ユニットのグループホームである。目の前に公園があり、窓からは石狩湾や小樽市街を一望できる環境となっている。職員が利用者に明るく言葉かけしており、利用者も楽しく過ごしている。自己評価の作成も職員全員で取り組み、サービスの向上を図っている。各ユニットで地域密着型サービスの意義を意識した理念を作成し、職員は理念をよく理解している。地域との関係では、地元のお祭りに利用者と共に参加し、事業所のお祭りにも10名以上の住民が参加している。また、併設する多目的ホールでボランティアによる手品や地域の看護師による踊り、中学生によるブラスバンド演奏などを楽しむ機会もある。馴染みの関係継続の支援では、手紙や年賀状のやり取りを支援したり、水族館や展望台、鉄道記念館、居酒屋など懐かしいと感じる場所に出かける機会を作っている。ケアマネジメントの面では、個々の基本情報シートを整備し、アセスメントシートも介護計画に合わせて6か月毎に更新している。日々の記録においても職員全員が介護計画を意識して記録する様になっている。受診支援では、往診体制や通院の支援体制を整え、受診記録も整備されている。外出支援の面でも、日常的な散歩や買い物の他、ドライブや外食など、利用者の希望に沿った外出支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本館及び各ユニット独自の理念に基づいてケアに反映させるようにし新人職員に浸透するようにミーティング等で話し合い理解に努めている。	事業所独自のケア理念とユニット毎の理念があり、ユニット毎の理念は地域密着型サービスの意義を踏まえた理念としている。共用空間にユニット理念を掲示し、職員は理念を意識し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方を消防避難訓練やふきのとう夏祭りにご招待し交流を図るとともに町内会の敬老会や、近隣の中学校の文化祭等の行事にも参加し地域との交流を図っている。	町内会に加入し、地域のお祭りに利用者と共に参加している。事業所のお祭りにも10名以上の住民の参加がある。多目的ホールでボランティアによる手品や地域の看護師による踊り、中学生によるブラスバンド演奏などを楽しむ機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや避難訓練の際は、地域の方々にチラシを配布し参加をさせていただき又運営推進会議においては認知症の方への支援のあり方についての意見交換等で、認知症の方への支援について理解して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を実施しふきのとうでの催し物や現状報告を行い、民生委員・地域包括・ご家族との意見交換やご指導をいただいています。	会議は年6回開催され、地域包括支援センター職員や町内会役員、民生委員、利用者・家族などの参加を得て、防災や感染症、外部評価、集団指導などをテーマに話し合っている。ふきのとう通信で家族に会議の案内を行っているが、議事録は送付していない。	運営推進会議での討議内容を会議に参加できなかった家族にも周知するため、議事録または議事録概要を家族に送付することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの方に参加して頂いている。又、困ったことや不明な点がある場合は市の担当者に相談・アドバイスをいただき常に連携を取り合っている。	運営推進会議で地域包括支援センター職員の参加を得るほか、手続きなど不明な点は市に問い合わせをしている。グループホーム協議会の場でも市の担当者と情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットに権利擁護委員を置き、身体拘束をしないケアについての外部研修に参加し、内部研修の際に発表している。日常の申し送り等でも、身体拘束をしないケアの説明をし、常に、全職員と話し合いながら意識してケアに取り組んでいる。玄関の施錠については日中は行っていない。	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的行為を示したマニュアルが整備され、年に数回の勉強会で確認したり、権利擁護委員会を中心に適切な対応を話し合っている。玄関は日中施錠せず、自由に入出入りすることができる。出入りがあればセンサーの音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットに権利擁護委員を置き、外部研修に参加した際は、得たことを内部研修で発表し、全職員が、理解し、実践に努めている。又、内部研修では、毎月、権利擁護委員より、その月に気付いた点等を説明し、振り返る機会を作り、不適切なケアを行われない様、話し合い、防止に努めている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、勉強する機会を設けている。実際に、御家族がいない方が入居されていたので、必要性についての説明は行っていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、本人と家族と十分な情報交換を行い、質問等を受けながら、説明をし、同意を得ている。契約の改定等も同様、御家族にわかりやすく説明を行い、質問等を受け、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情の受付窓口を設置しており、契約時に、説明している。もし、意見や苦情があった場合は、運営推進会議で報告し、又、ユニットではミーティング等で取り上げ、改善に努めている。ご家族には意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。	家族の来訪時に意見や要望を聞くほか、来訪の少ない家族には電話でも意見を聞いている。得られた意見は個別の「支援経過」や「申し送りノート」で共有している。毎月、利用者ごとに「ふきのとう通信」を作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているユニットのミーティングでは、事業所所長にも出来るだけ参加して頂き、意見や助言をもらっている。又、年に数回親睦会を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	ユニット毎に毎月ミーティングを行い、活発に意見交換している。職員はいつでも管理者や所長と相談することができ、権利擁護や衛生管理などの委員会に参加したり、防火管理や買い物、通信作成などの業務を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所得での手当及び、火元責任者、衛生管理委員、権利擁護委員の役職手当等、個々のモチベーションを上げ、やりがいを向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が、希望する外部研修には出来るだけ参加できる様、配慮している。又、参加した際には、毎月行っているユニットミーティングで発表し、全体で共有できる様、努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市グループホーム連絡協議会で主催する納涼会や、新年会に参加する機会を設け、他事業所との交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の段階から、御本人とコミュニケーションを図り、要望や、不安な事等をお聞きしながら安心して生活して頂ける様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の段階から、御家族の困っていることや、ご希望、不安なこと等をお聞きしながら、信頼できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される段階で、お話をする中で、御本人、ご家族が、何を必要としているかを見極め、アセスメントを行い、カンファレンスで話し合い、介護計画書を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るお手伝いをして頂き、常に、コミュニケーションを取りながら楽しみを共有し、共に生活していける者同士としての信頼関係を築ける様、努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ふきのとう通信を発行し、普段の様子をお知らせし、ご家族の来訪時や、電話でも、近況をお伝えし、ご家族と共に利用者様を支えている関係づくりを築ける様、努めている。又、状況によっては通院の際、ご家族と同席をさせて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通院していた病院に、可能な限り継続して通院出来る様、支援している。又、知人やお友達との関係が継続出来る様、支援している。体調等を見ながら、入居前から通われていた教会へ通われている方もいる。	数名の利用者に友人や、宗教関係の知人などの来訪がある。手紙を取り次いだり、年賀状の宛名書きを手伝うなどの支援をしている。5~6人の利用者が馴染みの理美容室に通っており、市内の水族館や展望台、鉄道記念館、居酒屋など懐かしい場所に出かける機会も作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々の性格等を考慮し、1人1人が孤立しない様、職員が会話の調整役となり、日常生活を楽しく過ごして頂ける様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に、ご家族とお会いする機会があまりないが、退去時には、何かあれば相談をして頂ける様、ご挨拶をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常、会話する中で、御本人の希望や意向を把握出来る様、意識し、出来るだけ要望に答えられる様に努めている。	3分の1程の利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい方の場合も表情や仕草などから把握している。基本情報シートを整備し、アセスメントシートを6か月毎に更新し、活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から生活歴を教えて頂いたり、又、御本人と会話する中で、今までの暮らし方や生活歴を聞き、ミーティング等でとりあげ、職員全体で把握できる様にし、ケアに繋げていける様、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の心身状態、身体状況を把握し、入居者それぞれの持っている力に合わせたお手伝いをして頂いたり、歩行訓練を行なって頂いたりして。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成時に、ご家族に参加して頂く事は難しいが、電話連絡の際に、意向を伺い取り入れる様、努めている。又、月に1回カンファレンスを行い、モニタリングを行い職員全体で話し合い介護計画を作成している。	3か月毎に介護計画に対するモニタリングを行い、3か月または6か月で計画を更新するほか、変化があれば随時の見直しも行っている。日々の記録は、ケアプラン実施項目に印をつけ、気づきや変化を文章で記載し、評価の際に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や、健康状態、ケアの実践結果を記録し、職員間で情報を共有してケアを行っている。又、記録の中で気付いた部分は職員全体で話し合い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の方の希望による買い物等、意向を伺いながら対応している。又、通院介助、お食事ツアーやドライブ等も計画し、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の敬老会への参加や、近隣の中学校の文化祭に参加し、楽しんで生活して頂ける様、支援している。又、近隣の神社のお祭りでは、神輿の舞も来て下さり、楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人やご家族の希望を伺い、かかりつけ医や、新たな医療機関で、適切な医療を受ける事ができる様、支援している。	内科と脳神経科の月2回の往診があり、その他、半分以上の利用者が個々のかかりつけ医に通院し、ほとんどの場合、事業所で送迎している。受診内容は個人ごとの医療分の「支援経過」に記載し、共有している。	

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、入居者の方の身体の状態の変化を観察し、職場内の看護職員と共に常に相談し合い、指示を仰ぐ等、適切な受診を受けられる様、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際には、ご家族と病院と連携を図り、十分な情報交換が出来る様、努めている。又、入院中の状況についても病院関係者から情報を頂ける様、努め、退院の際も、ご家族の同意のもと、出来るだけ、医師からのお話に同席をさせて頂き、その後の支援に繋げていける様努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合や終末期に向けた指針を説明し、御本人や、ご家族のその時点での意向を確認している。又、利用者の身体状態の変化について常に、かかりつけ医と連携を図り、早い段階から、ご家族、協力病院、看護職員、管理者等が話し合う機会をもちご家族、御本人の思いを第一に考えチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針、看取りに関する指針」を説明し、契約書と共に取り交わしている。過去に数人の看取りを経験しており、関連の外部研修に参加するなどの準備を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDを設置しており、定期的に応急処置の訓練、心肺蘇生等の訓練を行っている。又、事故発生に備えてマニュアルを作成し、出来る範囲での初期対応が出来る様、対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットに火元責任者を置き、毎月、火元責任者会議を行っている。責任者を中心に災害時のマニュアルを職員一同理解し、避難訓練や救急救命訓練を通して、地域の方の協力を得ながら実施している。又、ユニット単位でも夜間を想定した避難訓練を行っている。	年2回、夜間を想定した避難訓練を消防や住民の協力のもと実施し、地震を想定した訓練も行っている。また、訓練の反省会も行っている。職員の救急救命訓練を定期的に行い、AEDも設置している。災害時に必要な備蓄品も用意している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれに個々の人格があるので、一人一人の人格、尊厳を守り、プライバシーを尊重する声掛けを職員一同心がけている。	利用者への呼びかけは名字か名前に「さん」付けとしている。権利擁護の内部研修があり、接遇の外部研修は受講者が内容を全職員に伝えている。個人情報管理も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の交流から、利用者の方が話しやすいような環境作りや信頼が得られる様、声掛けをし、希望、自己決定できる様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、出来るだけ希望に沿って生活して頂ける様、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者の方の希望に応じながら、美容室に同行介助をしたり、出掛けられない方には訪問美容室での対応で支援している。又、御本人が希望される化粧品を使用して頂いたり希望を聞きながらエレガントケアをして頂ける様、お声かけを行っている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット行事や外食等を催し、利用者様のご希望を伺ってお好きなものを食べて頂けるよう企画している。毎食時でも個々の嗜好に配慮、希望するものを購入し提供している。食事の盛り付け、食器拭き、おしぼり畳等のお手伝いをして頂いている。	関連会社の献立で調理済みの食事が提供され、温度管理の必要なご飯や味噌汁等は事業所が担当している。職員も同じ食事をとり、利用者は盛り付け等を手伝い、誕生日にはケーキ等も食卓に上る。畑で採れた野菜や出前・外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量を記録、身体状況に合わせた食事形態(刻み、とろみ等)で対応している。十分に食事が摂れない方には主治医、看護職員と相談し、エンシュアやゼリー、水ようかん等を提供し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、個々の状態に合わせた口腔ケア(スポンジブラシ等)を行っている。義歯は必ず回収し義歯洗浄剤で汚れを落としている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレが備わっているため、自立している方すべてを把握できてはいるが、一人一人の身体状況に合わせ、なるべくトイレで排泄して頂けるように支援している。時間の間隔を決め積極的にトイレ誘導をしている。	身体的事情でトイレでの排泄が難しい方もいるが、一人ひとりに応じた対応や声かけで極力トイレでの排泄を支援している。自力でトイレに行ける方も含めて全員排泄記録を記載し、トイレ誘導の際は周囲に聞こえないよう配慮した声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者様の便の状態、排便間隔を確認しながら、看護職員に相談をし排便調整を行っている。便秘予防の為、リハビリ体操、歩行トレーニング、散歩等で運動して頂いたり、バナナヨーグルトを提供する等便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の身体状況やタイミングを伺い、入浴中には積極的に会話をし、楽しく満足して頂ける様に生活歴も加味し入浴を支援しています。	午後の時間帯で毎日入浴できる体制で、週2回を基本に入浴支援している。入浴拒否の方には無理強いせず表情を見ながら曜日を変更する等に対応している。湯加減や入浴剤を工夫し、同性介助の希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じ休んで頂いたり、心地よい睡眠を確保するための生活環境やリハビリ体操、歩行トレーニング、散歩などを行い安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬や頓服薬等が増えた時は、健康チェック表にいつから服薬を始めたかを記録し、症状の変化等を看護職員とともに確認していく様、努めている。又、マニュアルに沿って次の日の為の薬のセットを二重に確認し、服薬時も「氏名」「日にち」等の読み上げを二重にし、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の意欲や残存機能を維持して頂ける様、食器拭き、食事の盛り付け、洗濯たたみ、おしぼりたたみ等々お手伝いをして頂いている。又、入居前から好きな歌や芸能人のDVD鑑賞など個々に合わせた支援を行っています。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様のご希望に添い、お天気の良い日は公園に散歩に出掛けている。季節にあわせ、桜や紅葉を見にドライブに出かけたり、外食のツアーを行っている。美容室を希望される方への同行も行っている。	天候の良い時期には近くの公園や事業所周辺を車椅子の方も含めて散歩し、近くのスーパーに職員と一緒に日用品や洋服を買いに行ったりしている。また、季節の行事では、お花見や紅葉見学、おたる水族館、ウイングベイ、鉄道記念館等を訪れている。外食や通院等外出機会も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望を伺い、ご家族の了解のもと買い物や代行したり、同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で、御家族へ電話をしてお話したり、お手紙を書かれた時はお預かりして投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、清潔に気持ちよく過ごして頂くことを心がけている。廊下には、季節を感じられるディスプレイを行い、季節の行事での写真を貼り楽しんで頂いている。	建物は家庭的な雰囲気、段差のある個所もあるが浴室など利用者の身体能力に合わせてスロープを取り付けるなどの工夫をしている。食堂や居間には季節の飾りつけがなされ温かい雰囲気である。同建物内に多目的ホールがあり毎月カラオケやボールけり等が行われており、利用者や家族の楽しみになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルを気の合った方と一緒にしたり、簡単なお手伝いを職員と行いお話しする機会を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の住み慣れた家の雰囲気を感じられる家具や絵写真等を、ご家族と相談し、持参して頂けたらとお話し、馴染みの物で、落ち着いて生活して頂ける様工夫している。	ユニットによりトイレや洗面台、押し入れのある居室もある。利用者は各々が馴染みの品や家具、飾り物、写真等を持ちこみ居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、廊下に手すりを設置し、移動時には安全を考慮している。また、ご本人の出来ることを声掛けし、見守りしながら行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホームふきのとう 第2ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番53号		
自己評価作成日	平成27年12月3日	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者様の意向に出来るだけ沿い、個別の買い物や外出を行ったり、ご本人の希望される嗜好品等を購入する等、その人らしい生活を送って頂ける様、支援をさせて頂いている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0172000184-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年12月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の他、ユニット独自の理念をユニット全体で作成し、掲げ、その理念のもとに実践につなげて行けるよう、ミーティング等で話し合いを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練やふきのとう夏祭りに地域の方を招待し、交流を深めている。又、近隣の中学校の文化祭や町内会の敬老会に招待して頂き、参加をさせて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議にて、認知症の方に対するケア方法を説明したり、質疑応答を受け参考にして頂いている。又、年2回の全体消防避難訓練にも参加をお願いし、認知症の方への支援について理解をして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、民生委員、御家族、町内会の方、地域包括支援センターの方に出席して頂いており、可能な時は利用者様にも参加をして頂いていた。行事や事業所の取り組み等を報告し、意見を頂き、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの方に出席して頂いている。また、わからない事等が、あった場合は、市の担当者にその都度相談し、指導やアドバイスを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の方が安全で自由な暮らしができるよう、日々のケアの中で、身体拘束のないケアを常に意識し、常に、カンファレンスや日常で話し合っている。又、各ユニットに権利擁護委員を置き、委員から、毎月のミーティングにて日常のケアで気付いた点を振り返り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットに権利擁護委員を置き、外部研修等で学ぶ機会を設けている。又、毎月行われるミーティングの際、権利擁護委員より、その月の気付いた点等を説明し、振り返る場を設けている。又、入居者の方への言葉使い等は、ミーティングや日常でも話し合い、確認を行っている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、実際に活用されていた方がいらっしやったので、その必要性については理解を深めて行けるよう努めていた。日常生活自立支援については、今後、ユニット内の勉強会で取り入れていきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には御家族や、可能であれば御本人に重要事項説明書等を丁寧に説明し、要望や不安な点等を聞き、十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族の方には、意見や要望等、何でも話して頂ける雰囲気作りに努めている。御家族の意見や要望は、ミーティングやカンファレンス他、日常でも話し合い反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティングでは、事業所所長も参加しており、ユニットでの取り組みや提案を聞いている。又、年に数回懇親会を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニットより「衛生管理委員」「火元責任者」「権利擁護委員」等の役員を選出し、やりがい等を持って働けるよう、取り組んでいる。また資格取得での手当、及び役職手当等の昇給等、職員のモチベーションが上がるような就業環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度のミーティングでは、勉強会を行い、外部研修に関しては職員が希望する研修にはできるだけ参加できるよう配慮している。研修会で学んだ事はミーティングにて発表し、職員が共できるよう、努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市グループホーム連絡協議会主催の納涼会や新年会に参加する機会を作り、同業者との交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用を開始する際には、必ず御本人と面談を行い、ご本人の希望や身体状況、想いを伺いながら、安心して入居して頂ける様、コミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談の際から、御家族の方からの要望等を伺っているが、最近では独居の方が多くなっている。ご本人が不安にならないよう、信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に利用者様や御家族から伺った情報や、面談時の御本人の様子や会話等を元に、支援しなければならぬことを見極め、アセスメントを行い、ユニット全体でカンファレンスを行い、ケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様と暮らすパートナーとして、個々のこだわりや価値観等、ご本人の想いを共感し、一緒にお手伝いをして頂く等、生活を共にする同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度発行しているふきのとう通信等で毎月の様子を報告している。また、通院や主治医からの説明があることは、ご家族の了解の元、同席させて頂く等、共にご本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に御本人、御家族と相談し、なるべく入居前からの担当医に入居後も通院したり、知人の方が来訪に来られるなど、可能な限り、取り巻く人や支えてきた人達との関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで、利用者様同士が一緒にお手伝いを行ったり、ユニット行事等で一緒に楽しみ、スタッフも会話に入る等、お互いに触れ合い楽しく生活出来る様、努めている。また、学生の職場研修を月に何度か受け入れており、一緒にコミュニケーションを図って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の御家族や後見人とは、殆ど連絡等をとる事はないが、退去時には、何か相談があれば連絡を下さる様、お話をし、サービス利用中に培った関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、希望に添えるよう努めている。思いや意思を尊重し、たとえ困難な事であっても、傾聴し、寄り添うケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴等を収集し、日常の会話やイベントの中に取り入れ、支援することができている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体状況や毎日の生活を記録に記し、職員全体で把握し、カンファレンスし、ケアに繋げていけるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、事例検討・モニタリングを行い、ユニット全体で話し合い意見を反映させている。ご家族には面会時や電話等で伺ったことはケアに反映させるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子や身体状況を記録し把握している。職員間で情報を共有し、ケア方法や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、理美容室、買い物、お花見やお祭り等の外出で、利用者様の希望に添うよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の中学校の文化祭や、吹奏楽の観覧、お祭りではお神輿や獅子舞の披露等も来て下さっている。町内の敬老会への参加等で、生活を楽しくして頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、御家族と相談しながら、かかりつけ医、又は体調により新たな医療との関わりを支援している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の入居者の身体状況を朝の申し送りをはじめ、常に職場の看護職員と相談し合い、指示を仰いだり、身体状況の変化がみられた場合も主治医と看護職員と連携を図り、適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、御家族の同意の元、治療や今後の方向性等の医師からの説明に同席をさせて頂いている。又、日頃からかかりつけ医と常に相談等が出来る関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について、契約時に御家族へ説明を行っている。実際に、重度化、終末期になった場合は、早い段階で、改めて御家族、主治医と相談し合い、御家族、御本人の思いを受け入れながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変に備えてマニュアルを作成し、職員一同把握、理解に努め、意識をもって取り組んでいる。又、施設内にはAEDが設置しており、年2回救急救命の講習を受けAED使用方法を習得している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は、災害対応マニュアルを理解し、年に2回、消防署、地域の方に協力を頂き、全体避難訓練を行っている。又、夜間帯も想定しての避難訓練を行い、月に1度、火元責任者会議を行い、防災意識を高めている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を守り、声掛け等配慮するように意識している。また、ユニットに権利擁護委員を置き、毎月のミーティングでは、常に声掛け等を振り返る場を設け、気が付いた所を話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者様とのコミュニケーションをとり、ご本人の思いや、希望を伝えやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者様の希望に添って、外出や個別の希望に買い物に出かける等の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要な物がある際は、可能な限り一緒に外出している。また、希望を伺いながら購入している。また、可能な限り美容・理容室への外出も行っている。外出が困難な方には2ヶ月に1度、訪問カットで対応している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の身体状況に合わせて提供している。利用者様の希望があれば、好みの食品を購入し、食べて頂いている。又、食事前に、おしぼりたたみ等を手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量・水分量を記録している。身体状況に合わせて、その都度、食事形態を変えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、個々に合った口腔ケアを行って頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を見ながら、声掛けを行っている。また、利用者様の身体状況に合わせて、オムツ交換からトイレでの排泄に変えられた方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を把握し、看護師に相談しながら、下剤を調整するなど、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、ご本人の体調や気分を考慮して行っている。また、楽しみにしているテレビ番組などがある時は、時間をずらすなどの配慮をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後にテレビを観られたり、本を読まれたりと、個々の状況に合わせて休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って行っている。翌日の薬をセットした後、再度他職員がチェックし、服薬前に日付と名前を読み上げ、その後他職員に再チェックあい、ダブルチェックを行っている。処方箋はファイルに保管し、薬受取管理票を作り、記録し、細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方の残存能力に沿ったお手伝いをして頂いている。無理強いせずに、本人の気分や体調を考慮しながら行っている。又、御本人の希望により、喫煙所まで移動し、喫煙を楽しんで頂いている方もいる。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って、買い物・外出をしている。イベント行事の際には希望を把握し、可能な限り、外出できるよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や能力に応じ、通院等の外出時に買い物に寄り、支払い等の支援を行っている。その方によっては、一定額内の金銭管理が行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ、常にご家族に電話で話をして頂けるよう支援している。手紙が届いた際には、状態に応じてご本人に内容が伝わるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の移り変わりを感じて頂けるよう、ユニットの壁にディスプレイ飾りを貼り、季節に合った声掛けを行っている。利用者様が過ごしやすい物の配置等、工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでその方に合った過ごし方で生活できるような環境作りをしている。居室で読書を楽しんでいる利用者様もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご本人が使い慣れた家具や飾り物を持ち込んで頂けるよう支援している。また、ご本人の要望を聞き、生活空間に取り入れるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立でき、なおかつ安全に日常生活を過ごせるよう、手すりの設置や家具の配置を考えている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホームふきのとう 第3ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番53号		
自己評価作成日	平成27年12月3日	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者様の意向に出来るだけ沿い、個別の買い物や外出を行ったり、ご本人の希望される嗜好品等を購入する等、その人らしい生活を送って頂ける様、支援をさせて頂いている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0172000184-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年12月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふきのとう理念の他に、各ユニット内にて利用者様に合わせた独自のケア理念を掲げ、職員皆で共有し、サービス向上に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年8月に行われているふきのとう夏祭り、年2回の避難訓練に、地域の方々にも参加して頂いている。また、近隣の中学校文化祭や町内の敬老会に招待を頂くなどの交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議や、年2回行っている避難訓練を通し、地域の方々に認知症について理解を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度行い、町内会、御家族、民生委員、地域包括支援センターの方へ出席して頂き、ふきのとうの取り組み、イベントの実施状況等を報告し、意見などを頂き、サービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居時に市役所担当者が関わった利用者様が、市役所に行きたいと訴えた時には、一緒にお連れし、お話を聞いて頂いたことが度々あり、協力を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などで権利擁護委員会を中心に職員全体で話し合いをして、身体拘束に繋がらないケアを行っている。玄関は日中空いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護委員会やユニットミーティング等で、虐待につながりそうな事を常に話し合い、注意し合いながら防止に努めている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加して、ミーティングで報告しながら勉強会をしている。 成年後見制度の勉強会はしているが、全ての理解・把握までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項の説明を行い、要望や不安な点等をお聞きし、十分な説明を行い、理解をして頂ける様、努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の来訪時等や電話連絡の時に、意見や要望等、何でもお話しして頂ける様な雰囲気づくり心がけている。又、意見、要望、苦情等があった場合は、ユニット職員間で話し合っている。ユニットミーティングでも取り上げ、他ユニットの職員からの意見も頂いている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行うユニットミーティングや、各責任者会議に、事業所所長が参加し、意見や提案を言える場所を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得での手当及び、火元責任者、衛生管理委員、権利擁護委員の役職手当等を設けており、職員のモチベーションを高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、社内研修に参加し、勉強しながら常に向上心を高めている。又、研修に参加した職員は、内部の勉強会にて研修内容を発表している。また今年度はふきのとう内の相互訪問研修を行い、様々なケアや取り組みについてお互い高め合う努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市グループホーム連絡協議会主催の納涼会や新年会に職員が参加する機会を作り、他グループホームの方と交流が出来る様取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や不安な事等、お話を聞いている。一緒に買い物に同行したり、市役所に行き、本人の安心感につながるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族からサービスについて不安や要望を伺い、それについて一つ一つ説明した上で、安心して頂けるよう努めている。又、ご家族来訪時には生活・健康等の状況を伝え、信頼関係を築けるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前の段階で、ご家族、ご本人から話を伺い、その中から、まず必要とするケアを見極め、アセスメントを行い、カンファレンスで話し合い、介護計画書を作っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の利用者様に合わせて、お話ししたり散歩をしたりして、その方に合わせた支援をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒に外食したり、ご家族が迎えに来られ、外泊をされたりと、協力を得ながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にご自分で使っていた物などを居室に持ってきて頂いている。要望があれば、以前住んでいた場所まで出かけ、知人と会った方もいる。ご家族の協力の元、お墓参りに出かけた方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、些細なことでトラブルになりやすい為、なるべく職員が間に入ってお話するよう努めている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後御家族とお会いする機会はあまりないが、退去時には、近くに来られた時には寄って下さる様、又、何か相談があれば連絡を頂ける様、挨拶をしている。入院によりサービス終了になられた場合は病院へ面会へ行く事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見や要望があれば、職員同士で考えて、可能な限り対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の利用者様との会話の中で、新たな情報があつた場合は、生活歴に加え、職員で情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った過ごし方を見守っている。毎日の申し送り等で、日々、心身の変化等について話し合い、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ミーティングの中で、話し合いを行い、意見を出してもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたケアを行っている。毎月のカンファレンス等で心身の変化等があれば、ケアプランを見直し、変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状況に合わせて、ドライブをしたり、皆で歌を歌ったり、レクリエーションをしている。個別対応で、外出している方もいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣中学校の学校祭や、町内の敬老会に招待を受け、参加している。また、中学校の吹奏楽部の方が演奏に来られたり、雪明りのみちの際は、生徒さんたちがキャンドル作りをして下さっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様と相談し、出来るだけ入居前のかかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。かかりつけ医が変更になる場合は、ご家族様に説明・同意を頂いている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送りで看護師に身体状況の報告をして、指示をもらい対応している。褥瘡の処置をもらったり、排便困難な方の浣腸対応など、医療連携をとりながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院・退院となった場合は、ご家族の同意のもと、可能な限り医師からの説明を受けている。入院時には情報提供を行い、退院時にも情報を頂けるよう、医療機関と連絡をとり合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ここ一年は看取りケアをした方はいなかったが、入居の契約時に重度化した場合の指針についてご家族に説明をしている。また、看取りケアが必要になった場合には、再度、ご家族・主治医・看護師を含め、今後の方向性について話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の避難訓練を実施した際、救急救命士から心肺蘇生などの救命訓練を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火元責任者会議を開催し、防災や災害対策について話し合っている。年に2回の避難訓練の際は、地域住民にもお願いし、協力を頂いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から言葉遣いについて、職員間で意識して声掛けをし合ったり、ユニットミーティングで権利擁護委員会を中心に、話し合いをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望等があった場合は、自己決定してもらえるような声掛けをし、職員等に相談しながら、希望に添えるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望があった場合、ミーティング等を行い、要望に添えるよう対応している。困難な事例が生じた場合は、職員等で相談し合いながら納得してもらえるような声掛けをし、都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪店に行ける方は、2ヶ月に1度行っている。行けない方は、訪問理容で対応している。男性は3日に1度の入浴時に髭剃りを行い、身だしなみを整えている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー以外で個々の要望に応じて、おかずを用意している方もいる。おしぼりを洗って頂いたり、食器拭きのお手伝いをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を個々のケアチェック表を元に、その方に合った対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについても、個々に合わせたケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄をアセスメントした上で、その方に合わせて対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方に対しては、個人記録に記録し把握しながら、看護師に相談の元、下剤服用等で便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者個々の身体状況に合わせて対応している。体調不良時や拒否があった場合は、無理をせず翌日等に変更している。また、身体状況によっては、清拭対応する場合もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後やおやつ後に、リビングでテレビを観たり会話をしたりと、個々の希望通りに生活して頂いている。体調に合わせて居室で休んで頂いている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、名前・日付を読み上げ、再度他職員にも読み上げてダブルチェックし、誤薬防止に努めている。薬のセッティングには4度の確認をし、服薬後には記録している。薬の変更時は処方箋を確認、症状の変化を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ユニットでのゲーム、レクリエーションや、ユニットの外出行事、ホールでの行事に参加し、気分転換の支援を行っている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望を伺いながら、対応している。市役所や前に住んでいた家の周辺に出かけたり、ご家族様の協力を得ながら、外食されたりしている。天気の良い日には散歩に行ったり、花見ドライブ等にも出かけている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行に伴い、重度の方はご自身でお金の管理が難しい方もいるが、お金について執着の強い方については、少額のお金を所持し、安心して頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙や電話のやりとりをされている方はいないが、要望があった場合は、やり取りができる体制を整えている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除を毎日行い、居室など整理整頓に気を付けている。ストーブやエアコン、加湿器にて、温度・湿度の調整を行っている。季節に合わせた壁紙作りなどを、利用者様と共に作っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が自由に過ごして頂けるよう見守っている。居室に戻ったり、リビングで歓談して過ごすなど、居心地良く過ごせるよう見守り、声掛けしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で慣れ親しんで使っていた物を持ってきていただき、居心地よく過ごされるよう、心がけている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器拭きや入浴の準備など、出来ることを見極めながら行って頂いている。自立した生活が出来るよう、心がけている。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふきのとう

作成日：平成 28年 1月 13日

市町村受理日：平成 28年 1月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議での討議内容を会議に参加できなかった家族にも周知する為、議事録または議事録概要を家族に送付する事を期待したい。		議事録の送付との事であったが、検討する事とする。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。